

# Living the Lotus

## Buddhism in Everyday Life

6  
2023  
VOL. 213



## コルカタ支部道場入仏・落慶式 インドに“法の華”ひらく



Living the Lotus  
Vol. 213 (June 2023)

【発行】立正佼成会 国際伝道部

〒166-8537

東京都杉並区和田2-7-1 普門メディアセンター3F

Tel: 03-5341-1124 Fax: 03-5341-1224

E-mail: iiving.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

編集責任者: 赤川恵一

編集チーフ: 三川紗知

校閲者: 小坂和正、菊池克之

編集スタッフ: 国際伝道部スタッフ

立正佼成会は1938年に庭野日敬開祖、長沼妙佼脇祖によって創立された、法華三部経を所依の經典とする在家仏教教団です。家庭や職場、地域社会の中で釈尊の教えを生かし、平和な世界を築いていきたいと願う人々の集まりです。現在は庭野日鑑会長とともに、私たち会員は仏教徒として布教伝道に励みながら、宗教界をはじめ各界の人々と手をたずさえ、国内外でさまざまな平和活動に取り組んでいます。

Living the Lotus—Buddhism in Everyday Life(法華経を生きる～生活の中の仏教)というタイトルには、日々の生活のなかに法華経の教えを活かして、泥水に咲く美しい蓮の花のように、人生を豊かに、そしてより価値あるものにしていきたいとの願いが込められています。本誌を通じて、世界中の人々に日々の生活のなかで活かす仏教の教えをお伝えします。



## 季節の風物に心を寄せて

立正佼成会会长 庭野日鑛

### 自然にふれて感性を磨く

大都会といわず地方の小都市といわず、私たちの暮らしは、つねに自然の営みとともにあります。私が十年ほどすごした新潟県の菅沼でも、冬になれば雪が降り、夏が近づくと田植えをしてといった具合に、暮らしはいつも自然とともにあって、私も子どもながらに農作業を手伝い、鎮守さまでの盆踊りやお祭などの行事を楽しみにしていました。

どれだけ時代が移っても、四季折々の自然や風物はつねに生活と密接に結びついているのですが、それがいかに貴重なことかを私たちは忘がちです。季節の訪れを告げる草花や昆虫の生命力に目を見張り、大自然の織り成す美しさに感嘆するようなことも、大都会では少なくなります。

詩人のワーズワースは、「虹」という詩のなかで、  
「私の心は躍る、大空にかかる／虹の美しさを見たときに。／子どものころもそうだった、／大人となつたいまもそうなのだ、／そして、これから年を重ねてもそうでありたい／そうでなければ、この世に生きている意味はない！」

と詠っています。なぜ、ワーズワースは自然への賛嘆や畏敬を忘れたら生きている意味がないとまでいうのか——この問いに答えるかのように、生物学者のレイチェル・カーソンは自著にこう記しています。

「地球の美しさと神秘を感じとれる人は、科学者であろうとなかろうと、人生に飽きて疲れたり、孤独にさいなまれることはけっしてないでしょう。たとえ生活のなかで苦しみ



や心配ごとにであったとしても、かならずや、内面的な満足感と、生きていることへの新たなよろこびへ通ずる小道を見つけだすことができると信じます。／地球の美しさについて深く思いをめぐらせる人は、生命の終わりの瞬間まで、生き生きとした精神力をたもちつづけることができるでしょう」(『センス・オブ・ワンダー』上遠恵子訳／新潮社)

子どものころの素直な気持ちを忘れず、大自然の営みにふれて感動したり、その不思議に驚いたりする日常にこそ、若さや元気をたもつ秘訣があると詩人は詠っているのです。

## 黙々と真理を実行する自然

また、レイチェル・カーソンの言葉は、美しいものや神秘的なものを見て「きれいだな」「不思議だな」と感動できる感性があれば、苦しみや悲しみさえ乗り越えることができると教えています。豊かな感性は、苦惱から救われる道をみつける柔軟な心のはたらきにも通じていて、そのことによって命尽きるまで生き生きとすごせるというのです。

考えてみれば、自然は何一つ文句をいわず、ただ黙々とあるべき姿を見せ、多くの命を生かしてこの世をあらしめています。つまり、大自然は真理を黙って実行しているということです。そして、私たちの体が新陳代謝を繰り返すのもまた、真理を実行する大自然の姿の一つといえます。こうした大自然の営み、すなわち真理のはたらきに気づくことで、心の安定と救いがもたらされるのかもしれません。

たとえば、地球の美しさにふれた感動が、地球という星が存在する奇跡のような確率や、そこに息づく命一つ一つの営みを思う心に結ばれるとします。そうすると、この星で大切なのは、他を攻め、争うことではなくて、お互いの命を讃えあうことだと、だれもが気づくのではないでしょうか。そのような自覚が、人の心を穏やかにするのです。

その意味でも、できれば感性豊かな幼い子どもと一緒に、星を見たり、足元の草花に目を向けたりしてみてはどうでしょうか。もちろん、自宅にいても季節の風物や自然の営みにふれることはできます。それは、自分の感性を磨くと同時に、これから時代を生きる人と真理のはたらきを楽しみ、味わい、語りあうことです。心を育み、「人を植える」という未来に向けた大切な菩薩行でもあると思うのです。

(『校成』2023年6月号)



# Spiritual Journey

## 愛する家族の支えで得られた功徳

ディープシカ・ムツシュッディ  
南アジア伝道区コルカタ支部

この体験説法は、2023年3月19日に行なわれたコルカタ支部道場入仏落慶式典で発表されたものです。

み仏さま、開祖さま、お願ひいたします。会長先生、お願ひいたします。

ご来賓の皆さん、サンガの皆さん、ご参集の皆さん、入仏落慶式まことにおめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

本日は入仏落慶式のよき日に体験説法のお役を頂き、ありがとうございます。

私は1983年3月6日、コルカタで、父セバブロト・ムツシュッディ、母ディプティ・ムツシュッディの一人娘として生まれました。

わが家は決して豊かではありませんでしたので、母はたくさんの苦労をしながら、私を大切に育ててくれました。父が生きている間も父の死後も、母は私の教育のために懸命に働いてくれました。母の応援のおかげさまで、私は大学院まで進み、修士号を取得することができました。以前教師をしていた母の勧めで、私は大学院卒業後、公立学校で教師の仕事に就きました。

現在、私は地理学の教授として、公立大学に勤務しております。ここまでこれらの支えて頂いたおかげさまで。とくに、母がこれまで私の教育のためにしてくれたことはあまりにも大きく、語り尽くすことはできません。また、私の夫であるショルボミツロ・チョウドウリーの協力にも感謝せずにいられません。私は27歳で結婚し、35歳で一児の母となる幸せに恵まれました。誠実な夫の応援がなければ、私には現在の幸福を得ることはできませんでした。

私は2017年に立正佼成会の会員になりました。立正佼成会との出会いは、私にとって人生最大の

転機となりました。私の導きの親であるアヌップ・バルアさんに心より感謝申し上げます。

私が初めて道場に参拝した日、玄関に入ると、現在インド布教員をされているシュモン・バルアさんが私の靴を取り、下駄箱に入れてくださいました。普通、組織のリーダーはそんなことはしないので、私は少し驚きました。その後、水を汲みに行った私が床に水をこぼしてしまった、シュモンさんはすぐに雑巾を取りに行き、「水がこぼれたおかげさまで、床拭くことができて、まわりがきれいになりますね」と言いながら、床に広がった水だけでなく、水がこぼれた場所の周囲まで拭いていました。その姿を見て驚く私に、シュモンさんは「開祖さまと会長先生の教えを実践しているだけです」と答えました。そして、彼は開祖さまのご生涯について書かれた庭野光祥次代会長のご著書『開祖さまに倣いて』を使って、私に開祖さまについて教えてくださいました。シュモンさんのお話を聴いて、私は開祖さまの考え方やものの見方にとても感動しました。



コルカタ支部道場で説法するムツシュッディさん

その時、立正佼成会の会員さんたちがなぜ魅力的なのか、その秘密が分かった気がしました。人はふつう組織の長になると横柄になり、些細なことをまるで大きな手柄を立てたかのように自慢するものです。驕慢な心が生まれるので。ところが立正佼成会のリーダーの方々は、お世話になったことへの感謝の気持ちを伝えると、皆さん「いえいえ、とんでもない。すべては仏さまのおはからいです」とお答えになるのです。私は以前から「無我」について知ってはいましたが、立正佼成会では単に言葉だけでなく、日常生活の実践をとおして諸法無我の教えを学ぶことができるのです。

私は佼成会の教えの実践からさまざまな気づきや功徳を頂きました。ものごとの善い面を見ることや、不都合な出来事の中に大切な意味があることなど、佼成会に入るまではあまり聞いたことがありませんでした。しかし、そうした受け止め方をすればものごとの原因が見えてくることを、実践をとおして学ぶことができました。

数年前、私には理由がわからないまま、勤務先の大学の総長との関係が悪くなりました。総長から侮辱的な言葉をかけられるようになり、私はただ泣きながらそれを聞いているだけでした。私は博士号を取得していましたが、大学の勤務に必要な「博士号登録証明書」の発行を、総長に拒否されたこともあります。その時はご供養をとおして、何とか良い方向に向かうように念じ、数日後、総長から証明書を受け取ることができました。当時は総長だけでなく、他の多くの大学関係者との関係も良いものではありませんでした。そのため、さまざまなものづらい経験をしましたが、私は慈悲と忍辱の実践を常に心掛け、そのおかげで以前よりも人に優しくなれたように思います。

私は人生で最も苦しかった時、立正佼成会と出会うことができました。立正佼成会との縁を頂けたのは、前世の何かの善行のおかげかもしれません。

実は、私たち夫婦にはなかなか子どもが授からなかつたため、私は2015年から不妊治療を受けていました。体外受精を3回受け、3回目には4人の赤

ちゃんを授かりましたが、2か月半後に心音が聴こえなくなり中絶しました。その後しばらく治療を中断したあと、2017年の8月から治療を再開しました。立正佼成会に入会したのは、ちょうどその頃でした。2018年の元日には、母を佼成会にお導きさせて頂きました。私にとって二人目のお導きでした。

その頃、私は体力的にも精神的にも不妊治療を負担に感じるようになりました。シュモンさんに「私にはもう不妊治療を進める精神力がありません。これからは養子縁組を考えようかと思います」と相談しました。すると、シュモンさんは「お導きは法華経の実践の中で最高の修行です。教えをお伝えした功徳を頂けますよ。ましてや、お母さまをお導きしたことは最高の功徳ですので、もう少しの辛抱で夢がかないますよ」と言ってくださいました。

私はその直後の2月10日に体外受精を受け、妊娠することができました。当時私は新任の教授として研修期間中でしたが、妊娠期間中、母子ともに生命に関わるさまざまな問題を抱えていたため、大学に行くことができませんでした。

妊娠中、私は一日に二度、欠かさず経典を読誦し、時には法華三部経からいくつか品を選んで、経典と一緒に読誦していました。帝王切開による出産でしたが、手術室に入る前にも経典を読誦しました。手術室の中で私の血圧は240にまで上がったそうです。また、通常は大量の輸血が必要になるそうですが、私の血液型はRhマイナス型なのでさらに心配でした。そのため、赤ちゃんはたくさんの問題を抱えている可能性がありました。

赤ちゃんは男の子で、2000グラムの低出生体重児でしたが、健康に生まれてきました。出産後、担当してくれた医師は、「無事に出産できるか心配でしたが、まさに奇跡ですね」と言ってくださいました。私は妊娠中も、出産後も、お導きと手取りに精いっぱい頑張りました。妊娠と出産をとおして、私は法華経への信心を深めることができました。

子どもが生まれてからは、立正佼成会の家庭教育講演会に参加し、子育てについて多くのことを学びました。私が最初に学んだのは、決して子ども

叩いてはいけないこと、そして子どもが理解できるようにコミュニケーションをとることでした。

子どもが問題のある行動をした時、私たちはたとえ他人の前であってもその場で子どもを叩いてしまうことがあります。叩くことで子どもが将来また同じことをしないように注意するためです。しかし、結果として、それは子どもの心と体に大きな悪影響を及ぼします。

立正佼成会の会員さんやリーダーの皆さんと話した時に学んだことのひとつは、私自身が落ち着いて、子どもに対して思いやりの心で接すれば、子どもも落ち着いて、気まぐれな行動をしなくなるということです。私は、心配事があったり不安で落ち着かない時などに、経典をきちんと読誦できないことがあります。そのような時には、子どもも不安定な私の心に影響され、落ち着かなくなることに気づきました。

また、自分を他人と比較しないことや、ものとの原因是自分にあることも学びました。若い頃、私はいつも自分と他人を比較して、「なぜ私の人生はみんなのようにスムーズにいかないのか。なぜ私はこんなに苦労しなくてはいけないのか?」と思い悩んでいました。はじめにお話ししたように、母はたいへんな苦労をして私を育ってくれました。父は私が17歳の時に亡くなりました。私はその頃腰痛が悪化して歩くことさえままならなくなり、大学時代はほとんど寝たきりの状態でした。私は母に励まされながら学業を続け、大学を卒業することができました。しかし肉体的にも精神的にも、また経済的にも困難な生活が続き、いくら頑張っても報われないこの多さを常々感じていました。結婚の前後も、私は3か月間寝たきりの状態になってしまいました。母と夫、そしてまわりの皆さんのが助けてくださったおかげで、困難を乗り越えることができました。こうした困難な状態は、立正佼成会に入会した後も続きましたが、教えとサンガの皆さんのおかげで、私の心は軽くなりました。

信仰の道を歩む中で、もう一つ学んだことがあります。それは何か悪いことが起きた時、それを他人

のせいにしたり、逆に自分を責めたりしているだけでは、正しい道は歩めないということです。良いことがあっても奢らないこと、そして悪いことが起きた時は、自分の何が違っていたかを学ぶことが大切であると教えて頂きました。評価される喜びを得たいのなら、批判も進んで受け入れ、ものごとを客観的に見る力を持たなければなりません。仕事や生活のなかで、私はそうした学びを大事にしました。勤務先の大学でのつらい経験をとおして、私はどんな屈辱を受けても忍辱の心で受け入れ、調和を保つ努力が大切であることを学びました。そして、忍辱の心を保ってさえいれば、私を傷つけようとする行為は自然と止まるものだということも知りました。

そうした経験から得た自信は、意思決定をする際の大きな助けになりました。私は教育者ですが、セミナーやワークショップなど、大学の教室以外では人前でお話しすることに慣れていなかったため、いつも緊張していました。新型コロナウイルスによるロックダウンの最中、私は佼成会のオンライン法座に参加させて頂きましたが、その経験を通して人前でお話しすることへの自信を深めることができました。準備をしていない時に突然お話をるように言われても、今はすぐに対応できるようになりました。また以前は、何かの決断を迫られた時はとても緊張し、自分の判断に自信が持てず、悩んでいました。仕事をはじめ、あらゆるものごとにしっかり対応しているつもりでも、心の中では常に誰かにそばにいてほしいと考えていました。しかし、こうした恐怖心や不安感は過去のものとなりました。他人に頼らず自分を信じることの大切さを知ることができたのです。私の決断が良い結果につながった時は喜びを感じますが、決して奢ることのないように気をつけています。一方で悪い結果が出た時は、他人のせいにせず、すなおに自分の過ちを認められるようになりました。こうした自信を持てるようになったのは、立正佼成会の教えのおかげさまです。

今後、私は次のように精進していくことを誓います。

1. 私はどんな状況でも笑顔を保つように努め

# Spiritual Journey \*

ます。開祖さまと会長先生の笑顔を身につけられるように精進いたします。

2. 慈悲の母である、脇祖長沼妙校先生がご病気にもかかわらず、いつも笑顔で他人に優しく接しておられる動画を拝見し、とても感動しました。私もそのように菩薩道を歩み、仏性を育んでいけるよう精進いたします。

3. 良い関係を築けていない人々、私のことを嫌っている人々に対しても、近くにいようと遠く離れていようと、常に慈しみの心を持ち続けます。そしてそのような人々自身も、苦悩を抱えているからこそ私に厳しく接していることを思い、慈悲の心を持ちます。私につらく当たる人たちの心に平安が訪れ幸せになりますよう念じて参ります。

4. 日常生活の中で、小さな執着も大きな執着も取り去るよう精進いたします。些細なことですが、お金を払う時に、きれいなお札ではなく古いお札を渡す人が多いと思います。私はきれいなお札を渡すことで小さな執着を捨てる修行を始めました。また人から古いお札を差し出されても気にしないようにしています。きれいなお札を自分で持つより、相手に渡すという小さな実践をとおして一つ気づいたことがあります。それは、小さな執着を捨て去れば、大きな喜びが返ってくるということです。

5. まわりの人々の力になり、すべての人々の良いところ(仏性)を見つけられるよう精進いたします。物質的な楽しみは長くは続きません。一つの欲求が満たされると、知らないうちに次の欲求が生まれます。本当の幸せは信仰の道によってこそ得られるものだと思います。私は信仰から得た喜びを人さまに広げていけるよう努力いたします。

6. 人や生き物の苦悩を深く理解できる心を持ちたいと思います。人さまや生き物に対して思いやりの心を持ち続けられるよう精進いたします。

7. 私は立正佼成会に入会できたことをとても幸運に思います。この教えに出会うきっかけをくれた人生の困難な時期や出来事に感謝します。すべてが思い通りになつていれば、信仰の道を歩もうとは思わなかつたかもしれません。これまでの人生を振

り返り、すべての悪い出来事の先には必ず良いことが待っていることを確信しました。ものごとの本質を理解すれば、自分も他人も共に幸せになることができるのです。

8. 人さまの苦悩を理解し、人さまに本当に幸せになつもらうことが、信仰の最高の喜びであることを、今日、立正佼成会コルカタ支部新道場の入仏落慶式に参集された皆さまの笑顔が証明されています。法華経には「すべての人の悲しみを除いて幸せに導き、すべての人が法を聴くことで随喜し、すべての人の仏性を開顯する」教えが繰り返し説かれています。

立正佼成会コルカタ支部の会員の皆さまの長年の願いと祈り、たゆまぬ精進、そして立正佼成会の本部ならびに各拠点のご支援のおかげさまで、本日の入仏落慶式典を迎えることができましたことに對し、心より感謝申し上げます。

み仏さま、開祖さま、会長先生、脇祖さま、ご来賓の皆さま、コルカタ支部の責任者ならびに教師の皆さま、サンガの皆さま、そして世界中の立正佼成会の会員の皆さまに心より感謝申し上げます。皆さまの多方面にわたるご支援のおかげさまで、私たちは新道場落慶のお手配を頂くことができました。あらためて皆さまに感謝申し上げ、私の体験説法を終わらせて頂きます。ご清聴、まことにありがとうございました。



ムツシュッディさんの実家でのご本尊安置式後にお役者と

# まんが 立正佼成会入門

## お釈迦さまの生涯と仏教の教え

### 広い大きな心で(忍辱)

腹を立てたり、威張ったりせず、人を許す大きな心をもとうというのが「忍辱」の教えです。

たとえば、進んでよいことをしても、なかには「カッコつけてー」とからかう人もいるでしょう。そんな時、怒ったり、照れたりしないで、よい心を長くもち続けることが大切です。また、なまけたがる心をはげましてがんばることも必要なこと。

忍辱とはがまんするだけではなく、向上しようとする心をもち続けることでもあるのです。



#### 豆知識

忍辱とは、ただがまんをすることだけでなく、自分につごうの悪いことやきらいな人も受け入れる心をもつことだ。「寛容」という言葉にも置きかえられる。



『まんが立正校成会入門』は、校成ショップにて好評発売中です。

<https://www.koseishop.com/>

## ひたすら歩む(精進)



### 豆知識

会長先生は「精進」をこのように表現している。「よいことを真心を込めて繰り返す。しかも、それを楽しくなるまで繰り返すことが救われへつながるのです」。

よいことを迷うことなく続けていくのが「精進」です。  
しかし、これはとてもむずかしいこと。勉強しようと思ってもゲームやテレビが気になって集中できません。友達からさそわれると、つい外に出たくなってしまう。でも、遊んでばかりいると勉強する時間がなくなってしまいます。

自分がいま、行なうべきことに努力するのが大切なのです。勉強でも習いごと、スポーツでも、毎日時間を決めて行なっていきましょう。

この「精進」を会長先生は「急がず、休まず」と教えています。



仏になるために生まれてきた

一人残らず成仏できる

立正佼成会開祖 庭野日敬



お経文には「ぶつどう　じょうおん」(化城諭品)とあります。みなさんの精進ぶりを見て、  
いるといふと、「それほど遠く長い道のりではないのでは」という気もします。それは、自分の幸  
せよりも人さまの救いを先に考える、ほぼ「菩薩」に達している方、「仏」まであと一歩の  
ような方も大勢いるからです。

そういう意味では、一人ひとりが「仏の子」として真心で人さまとふれあい、常に相手の幸せを念じて、菩薩行に徹していくことが大事なのです。相手の苦しみを抜き、喜びを与えて、ほんとうの幸せにいたる道へと導いていくとき、一歩ずつ「仏」に近づいていくのです。

お釈迦さまは「方便品」で、「もし法を聞くことあらん者は もの ひと じょうぶつ 一りとして成仏せず」ということなげん」と、念を押すように説かれています。この教えを聞いた人は、一人残らず「成仏」できる、というのです。それは、私たちが「仏」になるために生まれてきたからで、いま「仏になる道」を歩んでいるからです。

「みんな仏になつてもらいたい」というのが仏さまの願いですが、私たち人間の側にも「仏さまのような智慧と慈悲を身につけたい」という誓願があります。それがぴったりと符合するとき、間違いなく、「一人として成仏しない人はない」という約束が実現するのです。

繰り返すようですが、「一人も漏れることなく、みんながみんな、仏になつてもらいたい」というのが、仏さまの本願です。私も、みなさんが「仏になる道」をまっすぐに歩むため、菩薩行に精進してくださることを念じるばかりです。

庭野日敬平成法話集1『菩提の萌を発さしむ』, P.28-29

# Director's Column



## 大自然に育まれる菩薩の心

国際伝道部長  
赤川惠一

部長コラム読者の皆さん、こんにちは。

今月も会長先生から「元気に精進」するための示唆をいただくことが出来ました。「季節の風物」に心を寄せることは菩薩行にも通じることをご教示いただきました。

ご法話を拝読し脳裏に浮かぶのは、感性鋭い10代の頃に過ごした雪国の季節感豊かな大自然です。私の感性もまた自然にふれることで、着実に育まれ、磨かれていたのだと実感しています。そして60代という人生後半に踏み入った現在の私にも、依然として子供の頃に育まれた自然への親近感と畏怖の念が、日々の行動規範に息づいているのを改めて自覚いたしました。

「真理を黙って実行する大自然」に倣って、人間社会で展開してしまう小我同士の衝突を乗り越える心の穏やかさを取り戻したいと思いました。

真理のはたらきを楽しみ、味わい、語り合う仲間が一人でも多く世界に増えるように願いながら、今いる場所でできる布教伝道に一層力を注いで参りましょう。

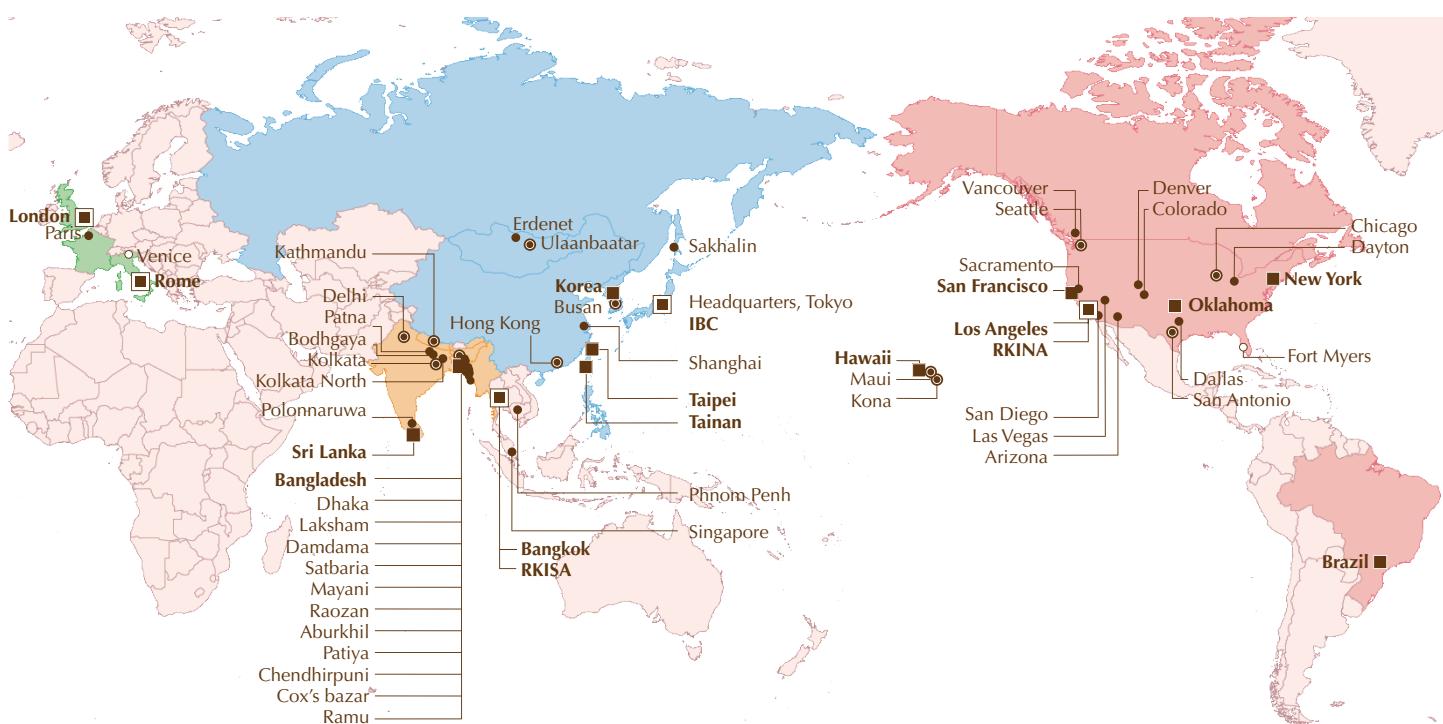


# Rissho Kosei-kai International

Make Every Encounter Matter



## A Global Buddhist Movement



Information about  
local Dharma centers

facebook

twitter



✉ Living the Lotus では、皆さんのご意見・ご感想を募集しています。  
お問い合わせは、以下の E メールアドレスにお願い致します。  
E メール : [living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp](mailto:living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp)